

1 まちづくり

(1) 今後の公共施設のあり方について

自治体の財政にも大きな影響を及ぼす公共施設の管理のあり方に対し、以前からPPP公民連携は社会資本の整備のあり方として注目されてきた。

- ① PPPでは指定管理者制度といった運営面での民間ノウハウを活用したものがほとんどであり、民間資金の活用のところまでには至っていない。今後の磐田市におけるPPP・PFIの活用についての考えを伺う。市内民間企業の関心も高いと思われ、参入の期待も高いと思われるがいかがか。
- ② 現在検討中である市民文化会館建設についてのPFIの活用・導入の可能性について考えを伺う。

(2) 産業振興について

- ① 今後の期待する産業分野に農水産業の可能性を大きく取り上げている。資源の保全や世界的な捕獲規制の中で、水産振興の視点から関係する誘致も含め陸上養殖の取り組みの考えはいかがか。
- ② メディアにも取り上げられているウルトラファインバブルが注目を集めている。農水産業だけでなく医療・環境衛生等にも有効といわれ活用が期待される。産業分野でのすそ野も期待できると思われるが見解を伺う。
- ③ さまざまな大きな壁は承知しているが、ワクワク感のある《夢》として福田漁港からの観光船離発着・観光新航路の開発可能性への取り組みについて伺う。

2 ひとつづくり

(1) 学校運営協議会について

学校運営協議会は地域が主体的に学校運営に参画するものであるが、学校運営という視点から言えば、その主体である子どもたちへの積極的な関わりを校内外で果たしていくことも極めて重要なことと思われる。

以下、次のことを伺う。

- ① 学校・家庭・地域の連携について、運営協議会が地域や家庭における子ども達との関わりについてどう位置づけしているのか伺う。子ども達とは継続的で日常的な関わりが重要であり、学校運営の中で地域に出来ること・地域に期待することへの取り組み・対応についても伺う。
- ② 学校運営の中でのリスク管理についてどのような対応・役割が分担されているのか伺う。

(2) しっぺい文学賞について

- ① これまでの検討経過について伺う。

(3) 学校全般について

- ① 教員の多忙化についての定義は何か。多忙感は仕事のカイゼンを図ることで随分と変容する。子どもの指導に関わる業務を増やすことが重要なことと考える。どこまでが教員の領域かは教員の個人差もあり難しいと思われる。改善方法としてSSWの早期配置の実現も望むところであるが、教育委員会内に事務指導部署を設け、学校内での事務処理機能を高め、業務のすみ分けを図ることも一つの方法と思われるがその考えはいかがか。
- ② 小学校での家庭学習の定着度はどの程度か。また定着化をすすめていくために、最も力を入れている取り組み、また家庭との連携は何か伺う。